

# 2017年度 青森県サッカーユース審判3級昇級講習会

青森県サッカー協会審判委員会

1. 期 日 平成29年2月4日（土）～2月5日（日）
2. 会 場 屋内トレーニングセンター五戸ドーム、ひばり野スポーツ交流センター
3. 宿 舎 ひばり野スポーツ交流センター
4. 参加者 3級昇級希望ユース審判33名+昨年度3級に昇級したユース審判4名、  
審判インストラクター10名
  - 植村 金造（青森県サッカー協会審判委員会委員長）
  - 川村 聖一（青森県サッカー協会審判委員会インストラクター部長）
  - 工藤 正人（青森県サッカー協会審判委員会インストラクター副部長）
  - 石鉢 学（青森県サッカー協会審判委員会指導育成部ユース部長）
  - 漆畑 成子（青森県サッカー協会審判委員会女子部長）
  - 小田 幸司（青森県サッカー協会審判インストラクター）
  - 古舘 学（青森県サッカー協会審判インストラクター）
  - 袴田 健（青森県サッカー協会審判インストラクター）
  - 沢目 秀樹（青森県サッカー協会審判インストラクター）
  - 三浦 欣也（青森県サッカー協会審判インストラクター）

## 5. タイムスケジュール

時間	2月4日	2月5日
7		朝食・レポート提出
8		【実技】審判団の打ち合わせ
9	開講式（大会要項・割当確認） 【実技】江渡杯での審判活動	【実技】江渡杯での審判活動
10	試合ごとに反省会を行い、次の割当で改善できているかを図った	
11		
12	キャラバン会議	
13		
14	【座学】キャラバン PTR 担当 INS への心得	
15		
16		閉講式（講評・今後の動き）
17	試合終了。更新者は解散。 【座学】対角線審判法の動き	
18	【座学】審判報告書の書き方	
19	夕食 競技規則テスト	
20	【座学】ユース年代への指導の現状 レポートの作成	

## 6. 講習会の様子

- 第39回江渡達男杯争奪選抜高等学校ミニサッカー親善大会にて、3人制審判を行った。
- 昨年度昇級した3級ユース審判員の更新講習会として設定し、1年の経験を通じて各自の課題を克服して成長したかを確認するだけでなく、次の課題が発見できる場とした。



## 7. 参加者レポート

### ● 荒屋敷 佳帆（ユース審判員・百石1年）

私がこの講習に参加した理由は、リーグ戦で副審をやった時に、主審だった人に「君うまいから3級取ってみよう」と言われたからです。自分でも副審が慣れるようになってきた頃、主審もやってみようかなと思いました。それに地元の五戸でやるということだったので、この機会は滅多にないなと思い、受けてみようと思いました。

初日に私は副審を二回やりました。副審は久しぶりでした。私の目標は、どちらのボールかはっきりとジャッジさせることでした。以前、選手からジャッジに対して不満を言われましたが、今回は自分が思った方にジャッジできたので、目標は達成できました。しかし、インストラクターの方に旗を上げるのが早いと注意されました。私はいつも慌ててしまい、オフサイドの時など旗を上げるのが早くなってしまいます。だからこれからの課題として、旗は慌てずに確認してから上げることを頑張りたいです。副審はボールがゴールラインをわる時、ゴールラインまで走らなければならないので、次はどう来るのか、しっかりと予測して審判をやっていきたいです。

### ● 熊谷 翼（ユース審判員・青森1年）

私は、小学生の全国大会出場時に審判をしていたユース審判に憧れを持ち、自分も審判として活躍していきたいと思っていました。私がこの昇級試験に参加した理由は、自分自身の審判スキルを向上させ、より選手に信頼される審判になりたいと思ったからです。さらに、青森市の各種大会でたくさんの副審をする機会を戴いたことで、主審にも挑戦したいと感じたからです。

今回の講習会では、主審と副審どちらも担当しましたが、主審は自分の経験がまだまだ足りず、

ポジショニングを意識するだけだったりファウルを監視するだけなど、一つのことだけしか意識できず、経験を積んで慣れていかなければならないことを痛感しました。また、インストラクターの方から多くのアドバイスや修正点を聞くことができました。ポジショニングをはじめ、スローイン時の審判の連携、キックオフの監視、オール時は近くまで行ってシグナルを行うなど、細かいことを徹底して行う大切さを学びました。普段は自分の審判についてのアドバイスをお話ししていただく機会がないので、貴重なアドバイスを感謝しております。

今回の講習会で、自分自身の審判スキルを少し向上することができました。また、普段自分達の審判をしてくださる方々の大変さとありがたさも改めて感じました。三級取得後は、より多くの経験を積むためにも二種の試合はもちろんのこと、三種や四種の大会にも積極的に参加し、青森市や青森県のサッカーのために、少しでも貢献していきたいと考えています。そして、サッカーファミリーとして、リスペクト～大切に思うこと～の気持ちを持ち続けて、これからの活動に邁進していきたいと思えます。

● 小笠原 理央（ユース審判員・野辺地西2年）

今回審判講習会を受けて思ったことがあります。それは、自分自身がサッカーをプレーしているのに、サッカーのルールの基本やコート、ボールのサイズなど知らないことがたくさんありました。また、私はサッカー選手としてサッカーにかかわっていますが、大きくなったからかかわるとなると、プレイヤーとしてかかわることが厳しくなった時に、レフリーなどとしてかかわるということもありなのかなと思えました。

試合中、いつも主審は敵だと思っていましたが、講習を受けて、主審は選手の安全や楽しく試合が進むように頑張ってくれているのだと知りました。春からはユースリーグが始まります。しっかりと審判の方々に感謝の気持ちを持って、サッカーをプレーしていきたいと思えます。今回の経験を生かして、サッカー人生を豊かにしていきたいです。

◆ 古舘 学（審判インストラクター）

インストラクターという立場で参加させていただき、青森県内のユース審判員と初めて交流をもつことができました。普段は選手として活動している審判員にとって、このような機会での競技規則にじっくり目を通すことで、また違う角度からサッカーに触れることができた貴重な経験になったと思えます。今後、青森県のサッカーを支えていく審判員を育てていく上で大切な場であると感じるとともに、その期待に応え得るインストラクターとしての技能も磨いていく必要性を感じました。

◆ 袴田 健（審判インストラクター）

今回、2017年度青森県サッカーユース審判3級昇級講習会およびサッカー3級インストラクター研修会に参加させて頂きました。実技、講義、競技規則テストと、それぞれの課題に真剣に取り組むユース審判員たちの姿に頼もしさを感じると共に、自分自身も審判員として初心に立ち返ることができました。また、SI3として改めて審判員指導の難しさを再認識すると同時に、上級のインストラクターから審判員指導についてのご指導を頂ける貴重な機会となりました。今回得た経験を今後の審判活動および後進の指導に活かしていきたいと思えます。

このような貴重な機会を与えて下さいました植村審判委員長をはじめご指導下さいましたインストラクターの皆様、参加されたユース審判の皆様、大会関係者の皆様に心から御礼申し上げます。



## 8. 謝辞

今年度も五戸サッカー協会のご厚意で、「第39回江渡達男杯争奪選抜高等学校ミニサッカー親善大会」をユース審判3級昇級講習会として活用することができました。37名のユース審判が一同に会し座学から実技まで研鑽できたことはとても有意義なことであり、少しでも審判の面白さを感じて頂き、将来的にはこの研修会に参加したユース審判からJFA主催の大会を裁くことのできる審判員が誕生する先駆けの、ユース審判育成の場になればと願っております。

最後に、審判員そして参加を承諾して頂いた家族・高校関係者の方々をはじめ、指導して頂いた審判インストラクター及び会場校として運営に携わった青森県立五戸高校サッカー部、五戸町スポーツ交流センターの皆様には多大なるご協力をいただき、無事に研修会を終えることができたことに感謝を申し上げ、謝辞とさせていただきます。

**【DREAM : 夢は叶えられるもの!】**

